

年報第3号の刊行にあたって

2018年（平成30年）の昭和大学内科学講座脳神経内科学部門教室の診療、教育、研究活動の記録をこの第3号にまとめさせていただきました。

当教室にとって、2018年は素晴らしい年でした。まずは後期研修医7名が加わってくれた点です。これは、旗の台の昭和大学病院スタッフだけでなく、藤が丘病院、江東豊洲病院、横浜北部病院のスタッフの方々のご協力のお陰でもあります。特に江東豊洲病院は脳卒中診療に特化しており、血管治療を含む脳卒中診療を学べる、国内では数少ない脳神経内科で注目度が上がっており、嬉しく思います。

2018年は国内では西日本豪雨や北海道地震などの災害は相次ぎ、被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げますと共に、いつどこでこのような災害が起こるか分からない、「災害大国」日本と防災の必要性を改めて感じさせられた年でした。明るいニュースは、まずは2月、冬季五輪平昌（ピョンチャン）大会で羽生結弦選手が右足の負傷を乗り越えてフィギュアスケート男子で連覇を達成されたことです。日本中、いや、世界中の人々の感動が沸き起こりました。10月には本庶佑先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。僕たちのように基礎研究を日夜続けている人間にはどれだけ励みになったのでしょうか。そして、11月、昨年の方針でも述べさせていただいた、僕が期待していたエンゼルスの大谷翔平選手が期待にそぐわぬ大活躍で米大リーグの年間最優秀新人選手（新人王）を受賞されたことです。二刀流という言葉が流行りましたが、僕たちも大谷選手にあやかって細々でもいいので臨床と研究の二刀流（教育も入れると三刀流？）を続けていきたいと願っております。

私たちの世界に目を向けると、やはり、一番の関心事は「神経内科」の科名称を「脳神経内科」と変更することになった点です。これは、世間一般に脳神経外科の科名称が知られており、それに対応する内科であることを強調すること、脳神経内科の幅広い診療内容を周知し精神科とは異なる診療科であることを強調することで世間一般や患者に理解いただきやすい科名称にすることが目的とされております。当教室でもいち早く科名を変更し、機能を異にする各附

属病院が連携することで、新たな専門医制度に対応できる体制を引き続き構築していくことになりました。脳神経内科領域にとって非常に重要な時期に大いなる可能性を秘めたフレッシュな先生方とともに昭和大学脳神経内科も国内外の情勢に乗り遅れないようにしていきたいと思います。

2018 年は当教室では、診療面では脳卒中診療を脳神経外科との連携を深めながら積極的に行い、昭和大学病院、ひいては城南地区での脳卒中診療の activity を上げることができました。また、認知症の地域医療への貢献として同級生の藤元君（鳳優会）のご協力を得て平成 29 年度から開催している「もの忘れカフェ」は、患者様やご家族だけでなく、認知症診療に関わる様々な職種の方々にご参加いただき、大変盛況な状況が続いております。学問におきましては、2018 年は国内学会、国際学会での発表、国際誌の症例報告、原著論文、総説論文の発表も教室員が臨床で忙しい中で頑張ってくれたと思います。これもひとえに学内外の皆様方の御指導、御鞭撻のおかげでございまして、この場をお借りいたしまして、心より感謝申し上げます。しかしながら、まだまだ全国の大学脳神経内科学教室の業績には遠く及びませんので、尚一層精進していく所存です。

最後に長らく当教室に臨床、教育、研究全てにおいて多大なる貢献をしてくれた村上秀友君が東京慈恵会医科大学神経内科に異動しました。東京に来てから公私共にもっともお世話になっている慈恵医大の井口教授からのラブコールに応えての異動で、この人事が慈恵医大、昭和大学脳神経内科の双方にとって、相乗効果をもたらすよう、両教室員がさらに結束を深めて脳神経内科の診療や研究レベルの向上につながることを期待しております。

昭和大学脳神経内科が今後、東京及び神奈川地区、ひいては日本そして世界においてさらに存在感を示していくために、教室員一同、より一層団結して臨んでいく覚悟です。この年報第 3 号を皆様に御高覧いただき、今後とも一層の御指導、御鞭撻を賜わりますことができれば誠に幸いに存じます。

2019 年 3 月

主任教授/診療科長 小野 賢二郎

1月19日、独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院 院長 武田篤 先生に、「新たなパーキンソン病治療戦略 ～デュオドーパの臨床経験から～」のタイトルで御講演賜りました。



2月9日、獨協医科大学脳神経内科 主任教授 平田幸一 先生に、「てんかんの診断と新しい薬物治療について」のタイトルで御講演賜りました。



3月2日、金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）教授 山田正仁 先生に、「脳アミロイドアンギオパチーと認知障害」のタイトルで御講演賜りました。



3月23日、東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室
教授 富田泰輔 先生に、「分子・細胞病態に基づく今後の認知症創薬研究の
展望」のタイトルで御講演賜りました。



3月30日、名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経病態学 神経内科学
教授 勝野雅央 先生に、「神経難病に対する治療法開発：これまでとこれから」
のタイトルで御講演賜りました。



6月29日、鳥取大学医学部脳神経内科学分野 講師 和田健二 先生に、「認
知症疾患診療ガイドライン 2017 ～わが国における標準的認知症診療～」のタ
イトルで御講演賜りました。



7月27日、スタンフォード大学医学部 Biomaterials and Advanced Drug Delivery Laboratory の Director である、Dr. Jayakumar Rajadas に、「Genesis of Tau hyperphosphorylation and pharmaceutical interventions to reverse Tau hyperphosphorylation」のタイトルで講演賜りました。



9月21日、独立行政法人国立病院機構北陸病院 認知症疾患医療センター長 吉田光宏 先生に、「認知症画像診断における落とし穴」のタイトルで御講演賜りました。



10月5日、愛媛大学大学院医学系研究科 老年・神経・総合診療内科学
教授 大八木保政 先生に、「認知症の臨床：薬剤の使い方と予防」のタイトルで御講演賜りました。



12月7日、北里大学医学部神経内科学 准教授 飯塚高浩 先生に、「自己免疫性脳炎における診断および治療上の留意点」のタイトルで御講演賜りました。



医局説明会



村上秀友先生（現・東京慈恵会医科大学神経内科 准教授）を送る夕べ



忘年会





2018 年 9 月 医局集合写真

(2) 大学人事異動

<新入医局員>

石 田 敦 士

小 菅 将 太

澤 井 綾 子

正 路 大 樹

鍋 島 陽 子

福 田 早 織

藤 井 隆 史

<転入>

4 月

宮 内 淑 史：虎の門病院より江東豊洲病院へ

10 月

稗 田 宗太郎：かわさき記念病院より昭和大学病院へ

<転出>

4 月

大 中 洋 平：昭和大学病院より荏原ホームケアクリニックへ

10 月

村 上 秀 友：昭和大学病院より東京慈恵会医科大学附属病院へ

<昭和大学附属病院内異動>

4月

金 野 竜 太：昭和大学病院より藤が丘病院へ

大 湾 善 行：昭和大学病院より藤が丘病院へ

井 藤 尚 仁：昭和大学病院より横浜市北部病院へ

三 木 綾 子：昭和大学病院より江東豊洲病院へ

笠 井 英 世：藤が丘病院より昭和大学病院へ

飯 塚 奈都子：藤が丘病院より昭和大学病院へ

野 原 哲 人：江東豊洲病院より昭和大学病院へ

浅 野 未 希：横浜市北部病院より昭和大学病院へ

10月

井 藤 尚 仁：横浜市北部病院より江東豊洲病院へ

三 木 綾 子：江東豊洲病院より横浜市北部病院へ

外来より

当科の外来は昭和大学病院および昭和大学病院附属東病院で行っております。

平成 28 年度より附属東病院でもはじまった「物忘れ外来」は、平成 29 年中も順調に患者数が伸びており、着実に訪れる高齢化社会の波と、皆様の認知症に対する関心の高まりが感じられます。世の中のニーズに答えるべく、昭和大学神経内科の骨格でもある認知症診療は、これまで以上にアカデミックで患者様一人一人に対応するきめ細かい医療を心掛けて参ります。

当科の一般外来においては、午前中は初診患者様および再診患者様を複数の神経内科専門医師が分担して診察にあたっており、午後は再診患者様を中心にみさせて頂くという体制を設けております。初診患者様は紹介患者様のみならず、直接来院された当科対象症状をお持ちの患者様もお受けしております。神経内科の初診患者様は頭痛、めまい、しびれがとて多く、大多数は一過性の機能障害であります。そして午前中の外来では多数の再診患者様を診察しつつ、大勢の初診患者様を診ているため非常に煩雑になっております。そのような体制の中でも緊急性のある神経疾患や神経難病疑いの患者様を見逃さないことが非常に重要であり、スタッフ全員がそれを念頭に一人一人の初診患者様を先入観なく拝見し、頭部から足先までのダイナミックな神経診察を行うようつとめております。このような神経診察にはどうしても時間を要することがあり、患者様には時に長時間お待ち頂くこともあります。ご容赦頂ければ幸いに思います。

私個人としましては、自分の専門分野でもある頭痛診療の一環として、2018 年 4 月より附属東病院で頭痛専門外来を担当させていただいております。頭痛の多くが機能性頭痛であり、客観的な数値や画像に頼ることのできない難しさがございます。そして訴え方は十人十色で、患者様一人一人に合わせたカスタムメイドの医療が必要となります。頭痛専門医としての知識や治療をできる限り患者様に還元しコントロール不良の頭痛患者様が、一定の治療期間でコントロール良好となり、御礼の御言葉をかけていただくことがございます。そういった御言葉はとても励みになり、より質の高い医療のご提供を志す動機づけにもなっております一方で、うまくいかない患者様も残念ながらいらっしゃる、もっと精進せねばと診療毎に新鮮な気持ちにさせられます。

今後さらに、一人でも多くの患者様に満足してもらえよう、よりアカデミックで、より地域に貢献できる神経内科外来を目指して、一般外来および特殊外来スタッフ一同、日々研鑽を積んで参る所存であります。

外来医長 笠井 英世

病棟より

昭和大学病院の脳神経内科の特色は、脳卒中やてんかん、神経感染症のような急性期疾患から認知症、変性疾患、筋・末梢神経疾患に至るまで幅広く診療している点にあります。近年、神経内科も診療の細分化が進む中、我々は神経内科のジェネラリストを目指し、日々精進しております。また、診療が浅く・広くならないように、毎週月曜日に新入院患者カンファランスを、毎週金曜日に教授回診や症例カンファランスを行い、全員で診断や治療方針の確認を行うよう努めています。昭和大学脳神経内科では一般神経内科班4班に加えて、脳卒中を主に担当する1班の合計5班体制で診療をあたっております。病棟スタッフは22人で担当し、神経内科専門医を含めた4～5人で班を構成して患者を担当することで、手厚い診療とともに、初期臨床研修医および後期研修医など若手教育も意識した診療体制となっています。

個人的には、年々増加する脳神経内科の需要に対応するためにマンパワーが必要になっていますが、この数年新入局員もたくさん入り需要に対応できるように少しずつなってきました。また、10年ほど前と比べると回復期リハビリテーション病院も近隣に増えてきており、脳卒中などのリハビリテーションの転院もスムーズにいくようになってまいりました。また日中の病棟業務のほかに、当直や救急当番を行う病棟医が如何に精神的・身体的に消耗しないようにするかが課題でした。予定外の仕事を経減するべく、外来からの緊急入院を減らし、一方で予定入院を定期的に確保するよう対策を立ててきましたが、うまく行かないこともあり、組織運営の難しさを知りました。

予期せぬ緊急入院にも快く対応して頂いた看護師や事務の方々、患者さんの検査に付き添って頂いたヘルパーの方々、転院や在宅調整を行って頂いたソーシャルワーカーの方々には大変お世話になりました。また当院からの転院を快く受け入れてくださるリハビリテーション病院や療養型病院の先生およびスタッフの皆様、地域の在宅医療を担って頂いている先生方の存在は、大変心強かったです。皆様のお力添えあつての大学病院だと思っています。この場を借りて脳神経内科一同、御礼を申し上げます。

病棟医長 齋藤 悠

〔４〕 教育活動

(1)講義

昭和大学の各学部および看護専門学校の学生に以下の通り講義を行った。

M2 中枢神経の生理

日付	学習内容	担当
4 月 13 日	脊髄機能と障害・大脳基底核の機能と障害	村上秀友
4 月 16 日	小脳の機能と障害・大脳皮質の機能と障害	村上秀友

M3 症候学

日付	学習内容	担当
4 月 2 日	痙攣・意識障害・失神	村上秀友

M3 系統講義 神経

日付	学習内容	担当
10 月 15 日	認知症の診断と治療	小野賢二郎
10 月 15 日	ミオパチー	黒田岳志
10 月 16 日	高次脳機能障害	二村明德
10 月 16 日	頭痛	加藤大貴
10 月 18 日	脊髄疾患総論	栗城綾子
10 月 18 日	脊髄疾患各論	四郎丸あずさ
10 月 19 日	末梢神経疾患総論	市川博雄
10 月 19 日	末梢神経疾患各論	市川博雄
10 月 22 日	脊髄小脳変性症	矢野 怜

10 月 22 日	大脳基底核障害について	小野賢二郎
10 月 23 日	中枢神経感染症	齋藤 悠
10 月 23 日	てんかん	石垣征一郎

M4 医学英語 B

日付	学習内容	担当
5 月 17 日	医学英語演習 1	四郎丸あずさ
5 月 24 日	医学英語演習 2	四郎丸あずさ
5 月 31 日	医学英語演習 3	四郎丸あずさ

M4 CBT 特別講義

日付	学習内容	担当
6 月 28 日	人体各器官の正常構造と機能、病態、診断の基本	村上秀友

M4 診察技法実習 【旗の台】

日付	学習内容	担当
5 月 15 日	神経系(四肢・末梢)診察	齋藤 悠
5 月 22 日	神経系(四肢・末梢)診察	所澤任修
5 月 29 日	神経系(四肢・末梢)診察	矢野 怜
6 月 5 日	神経系(四肢・末梢)診察	小口達敬
6 月 12 日	神経系(四肢・末梢)診察	二村明德
6 月 26 日	神経系(四肢・末梢)診察	森友紀子

M4 診察技法実習 【藤が丘】

日付	学習内容	担当
5 月 15 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太
5 月 22 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太
5 月 29 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太
6 月 5 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太
6 月 12 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太
6 月 26 日	神経系(四肢・末梢)診察	金野竜太

M4 診察技法実習 【横浜市北部】

日付	学習内容	担当
5 月 15 日	神経系(四肢・末梢)診察	石垣征一郎
5 月 22 日	神経系(四肢・末梢)診察	石垣征一郎
5 月 29 日	神経系(四肢・末梢)診察	石垣征一郎
6 月 5 日	神経系(四肢・末梢)診察	石垣征一郎
6 月 12 日	神経系(四肢・末梢)診察	内山正信
6 月 26 日	神経系(四肢・末梢)診察	内山正信

M4 総合講義

日付	学習内容	担当
10 月 27 日	意識障害	稗田宗太郎
11 月 10 日	けいれん	大湾喜行
12 月 1 日	聴力障害、めまい、耳鳴	栗城綾子
12 月 15 日	視力障害、視野異常、複視、眼球運動障害	齋藤 悠

12月15日	嗄声	稗田宗太郎
1月26日	失神	黒田岳志

M5 総合講義

日付	学習内容	担当
4月7日	嚥下障害、誤嚥	黒田岳志
4月14日	悪心、嘔吐、胸焼け	栄 良樹
6月16日	排尿障害	森 友紀子
7月7日	記憶障害、思考障害(妄想・脅迫)、幻覚	二村明徳
7月14日	睡眠障害	四郎丸あずさ
8月18日	構音障害、失語	矢野 怜
8月18日	頭痛、頭重感	笠井英世
8月25日	歩行障害、不随意運動	馬場康彦
8月25日	感覚障害	黒田岳志
9月1日	筋肉痛	村上秀友
9月8日	運動麻痺、運動失調、筋力低下	村上秀友
9月29日	糖尿病	四郎丸あずさ

M6 集中講義

日付	学習内容	担当
9月12日	総論 1	村上秀友
9月12日	総論 2	村上秀友
9月13日	各論 1	村上秀友
9月13日	各論 2	村上秀友

D3 ヒトの病気

日付	学習内容	担当
6月20日	神経所見の取り方、麻痺、認知症、脳血管障害	矢野 怜
6月27日	頭痛・顔面痛を来す疾患とその治療、髄膜炎・脳炎などの神経領域の感染症	齋藤 悠

D4 高齢者歯科

日付	学習内容	担当
4月18日	認知症の概要	矢野 怜
4月18日	脳血管障害の概要	村上秀友
6月4日	神経変性疾患と重症筋無力症の概要	村上秀友

P3 薬と疾病

日付	学習内容	担当
4月9日	神経・筋疾患の症候と代表的な疾患	村上秀友
4月16日	脳血管疾患、認知症	村上秀友
4月23日	パーキンソン病	村上秀友
5月7日	てんかん	村上秀友
5月21日	脳腫瘍、脳炎、プリオン病	村上秀友

保健医療学部 理学・作業療法学科2年生 臨床医学神経内科

日付	学習内容	担当
9月5日	脳神経疾患総論	村上秀友
9月12日	神経症候の診かた	村上秀友
9月19日	高次脳機能障害	金野竜太

9 月 26 日	脳血管障害	神谷雄己
10 月 10 日	末梢神経疾患総論・各論	矢野 怜
10 月 17 日	変性疾患総論・各論	石垣征一郎
10 月 31 日	中毒・代謝性疾患	矢野 怜
11 月 14 日	筋疾患・神経筋接合部疾患	金野竜太
11 月 21 日	感染症・炎症性・自己免疫性・脱髄性神経疾患	齋藤 悠
11 月 28 日	発作性疾患、頭部外傷、脳腫瘍	馬場康彦
12 月 12 日	脊髄疾患総論	馬場康彦

看護専門学校 臨床医学

日付	学習内容	担当
12 月 17 日	神経内科 1	石垣征一郎
1 月 7 日	神経内科 2	石垣征一郎
1 月 21 日	神経内科 3	石垣征一郎

(2)臨床実習

系統講義、共用試験 OSCE に合格して進級してきた学生に臨床実習が開始されるが、当科においても M4 の臨床実習(1 週ずつ系統的に全科を回る)を受け入れ、学生指導を行った。

(3)診療参加型臨床実習

系統的な臨床実習を終了し、その後の総合試験に合格した学生が診療参加型臨床実習(3～4 週間を 1 タームとして希望した科を回る)を行う。本実習は医療スタッフの一員として各科に配属され、教室員と学生のコミュニケーションも濃厚となるなど、学生にとっても有意義な実習期間である。

[5] 業 績

(1) 論文・著書

(A) 原著論文

英文

Futamura A, Honma M, Shiromaru A, Kuroda T, Masaoka Y, Midorikawa A, Miller MW, Kawamura M, Ono K. Singular case of the driving instructor: Temporal and topographical disorientation. *Neurol Clin Neurosci* 6:16-18, 2018

Ho L, Ono K, Tsuji M, Mazzola P, Singh R, Pasinetti GM. Protective roles of intestinal microbiota derived short chain fatty acids in Alzheimer's disease-type β -amyloid neuropathological mechanisms. *Expert Rev Neurother* 18:83-90, 2018

Ho L, Zhao D, Ono K, Ruan K, Mogno I, Tsuji M, Carry E, Brathwaite J, Sims S, Frolinger T, Westfall S, Mazzola P, Wu Q, Hao K, Lloyd TE, Simon JE, Faith J, Pasinetti GM. Heterogeneity in gut microbiota drive polyphenol metabolism that influences α -synuclein misfolding and toxicity. *J Nutr Biochem*, in press.

Honma M, Masaoka Y, Koyama S, Kuroda T, Futamura A, Shiromaru A, Terao Y, Ono K, Kawamura M. Impaired cognitive modification for estimating time duration in Parkinson's disease. *PLoS One* 13: e0208956, 2018

Iwasa K, Yoshikawa H, Hamaguchi T, Sakai K, Shinohara-Noguchi M, Samuraki M, Takahashi K, Yanase D, Ono K, Ishida C, Yoshita M, Nakamura H, Yamada M. Time-series analysis: variation of anti-acetylcholine receptor antibody titer in myasthenia gravis is related to incidence of Mycoplasma pneumoniae and influenza virus infections. *Neurol Res* 40:102-109, 2018

Kinno R, Ohashi H, Mori Y, Shiromaru A, Ono K. Agraphia of the left hand with dysfunction of the left superior parietal region without callosal lesions. *eNeurologicalSci* 10:16-18, 2018

Kobayashi R, Kenji S, Taketomi A, Murakami H, Ono K, Otake H. New mode of burst spinal cord stimulation improved mental status as well as motor function in a patient with Parkinson's disease. *Parkinsonism Relat Disord* 57:82-83, 2018

Matsuda H, Murata M, Mukai Y, Sako K, Ono H, Toyama H, Inui Y, Taki Y, Shimomura H, Nagayama H, Tatenno A, Ono K, Murakami H, Kono A, Hirano S, Kuwabara S, Maikusa N, Ogawa M, Imabayashi E, Sato N, Takano H, Hatazawa J, Takahashi R. Japanese multicenter

database of healthy controls for [^{123}I]FP-CIT SPECT. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* 45:1405-1416, 2018

Murakami H, Yamamoto K, Yasumoto T, Kimura A, Sakae Y, Nomoto S, Kubota S, Watanabe D, Watanabe K, Saito Y, Yano S, Ono K. Cerebrospinal fluid 5-HIAA concentrations correlate with cardiac uptake of ^{123}I -MIBG during myocardial scintigraphy in drug naïve Parkinson's disease. *J Neural Transm* 125:1511-1514, 2018

Murakami H, Kimura A, Yasumoto T, Miki A, Yamamoto K, Ito N, Momma Y, Owan Y, Yano S and Ono K. Usefulness differs between the Visual Assessment and Specific Binding Ratio of ^{123}I -ioflupane SPECT in assessing clinical symptoms of drug-naïve Parkinson's disease patients. *Front Aging Neurosci* 10:412, 2018

Nagayama H, Kano O, Murakami H, Ono K, Hamada M, Toda T, Sengoku R, Shimo Y, Hattori N. Effect of istradefylline on mood disorders in Parkinson's disease. *J Neurol Sci* 396:78-83, 2018

Shiromaru A, Kinno R, Ito N, Ono K. The cerebellar leptomeningeal enhancement associated with cryptococcal meningitis. *Intern Med*, in press.

Shiromaru-Sugimoto A, Murakami H, Futamura A, Honma M, Kuroda T, Kawamura M, Ono K. The subjective perception of past, present, and future time in patients with Alzheimer's disease: a qualitative study. *Neuropsychiatr Dis Treat* 14:3185-3192, 2018

Shozawa H, Oguchi T, Tsuji M, Yano S, Kiuchi Y, Ono K. Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro. *Neurosci Lett* 677:19-25, 2018

Shozawa H, Futamura A, Saito Y, Honma M, Kawamura M, Miller MW, Ono K. Diagnostic apraxia: A unique case of corpus callosal disconnection syndrome and neuromyelitis optica spectrum disorder. *Front Neurol* 9:653, 2018

Watanabe K, Masaoka Y, Kawamura M, Yoshida M, Koiwa N, Yoshikawa A, Kubota S, Ida M, Ono K, Izumizaki M. Left posterior orbitofrontal cortex is associated with odor-induced autobiographical memory: An fMRI study. *Front Psychol* 9:687, 2018

(B) 総説論文

a. 英文

Ono K. Alzheimer's disease as oligomeropathy. *Neurochem Int* 119:57-70, 2018

Watanabe-Nakayama T, Ono K. High-speed atomic force microscopy of individual amyloidogenic protein assemblies. *Methods Mol Biol* 1814:201-212, 2018

b. 和文

石垣征一郎、内山正信、井藤尚仁、小野賢二郎：認知症と高齢者てんかん。 *老年精神医学雑誌* 29 : 1045-1050, 2018

小野賢二郎：DLB と PDD。 *日本臨床* 76 (増刊号 4) : 351-354, 2018

小野賢二郎：ポリフェノールによる認知症予防。 *日本臨床* 76 (増刊号 1) : 196-200, 2018

小野賢二郎、山田正仁：アミロイド仮説は否定されるのか。 *神経治療学* 35 : 182-186, 2018

金野竜太、酒井邦嘉：【「左脳と右脳」の現在】前頭連合野における左右差 統辞処理関連の神経回路。 *Brain Nerve* 70 : 1075-1085, 2018

金野竜太：認知モデルと方法論 Voxel-based lesion-symptom mapping。 *神経心理学* 34 : 209-217, 2018

金野竜太：【失語症の今】言語と脳機能。 *総合リハビリテーション* 46 : 505-510, 2018

金野竜太、酒井邦嘉：ニューロサイエンスの最新情報 小脳の言語機能。 *Clin Neurosci* 36 : 622-623, 2018

黒田岳志、小野賢二郎：危険なめまい・耳鳴り。 *臨床と研究* 95 : 773-777, 2018

中山隆宏、紺野宏記、山田正仁、小野賢二郎：高速 AFM によるタンパク質集合体のダイナミクスの観察。 *生物物理* 58 : 86-88, 2018

馬場康彦、金野竜太、小野賢二郎：姿勢異常をきたす神経疾患(パーキンソニズム以外)の特徴。 *神経内科* 89 : 408-412, 2018

馬場康彦：最前線の知識と実践がわかる ナースが知りたい！認知症のハナシ(第 18 回) 治療・ケアを理解する 認知症の病名告知をめぐる。 *ナーシング* 38 : 94-98, 2018

二村明德、河村 満、小野賢二郎：音楽性幻聴。 *Brain Nerve* 70 : 1147-1156, 2018

二村明徳、小野賢二郎：レビー小体型認知症診断基準の2017年改訂について。認知症の最新医療 8：93-94, 2018

二村明徳、小野賢二郎：認知症関連疾患。月刊レジデント 11：82-89, 2018

村上秀友、小野賢二郎：PDの認知機能障害と関連する運動症状。認知症の最新医療 8：14-17, 2018

村上秀友、小野賢二郎：純粹自律神経不全症。日本臨床 76(増刊号4)：361-365, 2018

(C) 著書

和文

神谷雄己：特集 観察スキルを上げる 脳梗塞の観察スキルを上げる。プレホスピタル・ケア。プレホスピタル・ケア編集委員会、東京、pp32-34, 2018

四郎丸あずさ、小野賢二郎：てんかんの神経心理学。臨床神経心理学 緑川晶、山口加代子、三村將 編。医歯薬出版株式会社、東京、pp39, 2018

四郎丸あずさ、小野賢二郎：軽度外傷性脳損傷。臨床神経心理学 緑川晶、山口加代子、三村將 編。医歯薬出版株式会社、東京、pp69, 2018

二村明徳、小野賢二郎：抗認知症治療薬。歯科における薬の使い方 2019-2022。デンタルダイヤモンド社、東京、pp218-219, 2018

(D) その他（一般向け著書等を含む）

和文

小野賢二郎：書評 認知症疾患診療ガイドライン 2017。Brain Nerve 70。医学書院、東京、pp232, 2018

黒田岳志、小野賢二郎：中年期以降の非飲酒と過度な飲酒 認知症発症リスクを高める -解説 過度な飲酒群でリスク上昇 ガイドラインの飲酒量の下方修正必要-。世界の医学・医療を知る The Mainichi Medical Journal 14。毎日新聞出版、東京、pp185, 2018

(2) 学会・研究会等

(A) 特別講演/招待講演/教育講演

a. 国際学会, シンポジウム

Murakami H. One person with Parkinson's Disease and amantadine-induced psychosis. Takamatsu International Symposium for Parkinson's Disease and Movement Disorders, Tokyo, 2018.2.23-25

Ono K. Alzheimer's disease as oligomeropathy. The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, 2018.3.26-29

Ono K. The Therapeutic approach of Alzheimer's disease on Oligomer hypothesis. 19th International Congress of Neuropathology, Tokyo, 2018.9.23-27

b. 国内学会, 研究会, シンポジウム

小野賢二郎：パーキンソン症候群の歩行障害 安全な脊椎手術を目指して。第8回日本成人脊柱変形学会、東京、2018. 3. 10

小野賢二郎：オリゴマー仮説に基づいたアルツハイマー病治療薬開発へのアプローチ。第123回日本解剖学会総会全国学術集会、東京、2018. 3. 28-30

小野賢二郎：認知症関連疾患。日本神経治療学会 第3回神経治療研修会、東京、2018. 4. 8

小野賢二郎：Intra- & into-the-brain propagation of α -synuclein: Future Therapy. 第59回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

小野賢二郎：アルツハイマー病の治療戦略。第59回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

小野賢二郎：原子間力顕微鏡および電子顕微鏡によるアミロイド構成蛋白質凝集の観察。日本顕微鏡学会第74回学術講演会 第11回風戸賞受賞講演会、福岡、2018. 5. 29-31

小野賢二郎：シロスタゾールの抗アミロイド効果。第9回日本脳血管・認知症学会総会、大分、2018. 8. 4-5

小野賢二郎：蛋白凝集から神経変性疾患の治療戦略を探る。第6回日本アミロイドーシス研究会学術集会、長野、2018. 8. 25

小野賢二郎：Biomarker for Lewy body diseases. 第40回日本生物学的精神医学会・第61回日本神経化学学会大会 合同年会、神戸、2018. 9. 6-8

小野賢二郎：Treatment of Alzheimer's disease: Current situation and prospect.
第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会 合同年会、神戸、
2018. 9. 6-8

小野賢二郎：アルツハイマー病の臨床病理病態。日本認知症予防学会 第 5 回認知症
予防専門医教育セミナー、東京、2018. 9. 23

小野賢二郎：非薬物的アプローチからアルツハイマー型認知症を考える。第 69 回
日本リハビリテーション医学会関東地方学術集会 専門医・認定臨床医生涯教育研修
会、東京、2018. 9. 30

小野賢二郎：認知症 最新の治療アプローチ。日本脳神経外科学会第 77 回学術総会、
仙台、2018. 10. 10-12

小野賢二郎：アルツハイマー病：疾患修飾へのアプローチ。第 37 回日本認知症学会
学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

小野賢二郎：内科的疾患に伴う認知症。第 37 回日本認知症学会学術集会、札幌、
2018. 10. 12-14

神谷雄己：経皮経管的脳血栓回収術 ―テクニックの進化と深化を追及する―。第 21
回日本栓子検出と治療学会、千葉、2018. 10. 5-6

神谷雄己：「心原性脳塞栓症をあきらめない」―脳血管内治療医の立場から―。第 250
回日本循環器学会関東甲信越地方会、東京、2018. 12. 8

(B) 一般演題

a. 国際学会, シンポジウム

Ono K, Watanabe-Nakayama T, Itami M, Takahashi R, Teplow DB, Yamada M. High-speed
atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid β 1-42 Aggregates (2).
Alzheimer's Association International Conference 2018, Chicago, 2018.7.20-25

Kinno R, Muragaki Y, Maruyama T, Tamura M, Tanaka K, Ono K, Sakai KL. Effects of a
left frontal glioma on the cortical structures of both hemispheres. The 41st Annual Meeting of
the Japan Neuroscience Society, Kobe, 2018.7.26-29

Kuroda T, Kinno R, Mori Y, Futamura A, Shiromaru A, Yano S, Murakami H, Ono K.
Investigation of cerebral microbleeds in Alzheimer's disease. The XVIth International
symposium on Amyloidosis, Kumamoto, 2018.3.26-27

Murakami H, Owan Y, Kuroda T, Saito Y, Yano S, Kawamura M, Ono K. Dopaminergic drugs affect executive function differently according to the clinical stage of Parkinson's disease. *Advances in Alzheimer's and Parkinson's Therapies. An AAT-AD/PD Focus Meeting, Torino, 2018.3.15-18*

Murakami H, Owan Y, Ono K. Correlations of cognitive and motor functions with visual and quantitative assessments of ^{123}I -ioflupane SPECT in drug-naïve early Parkinson's Disease. *The XVIth International Symposium on Amyloidosis, Kumamoto, 2018.3.25-27*

Murakami H, Owan Y, Futamura A, Saito Y, Kuroda T, Ono K. ^{123}I -MIBG myocardial scintigraphy can be marker of language function in de novo Parkinson's disease. *Alzheimer's Association International Conference 2018, Chicago, 2018.7.20-25*

Tanaka K, Kinno R, Sakai KL. The reproducibility and variety of the three syntax-related networks for sentence processing. *The 41st Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Kobe, 2018.7.26-29*

b. 国内学会，研究会，シンポジウム

石垣征一郎、内山正信、井藤尚仁、金野竜太、村上秀友、馬場康彦、小野賢二郎：老年期うつ病評価尺度(GDS)を用いた初期パーキンソン病におけるうつと運動症状の検討。第37回日本認知症学会学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

井藤尚仁、四郎丸あずさ、山本 謙、森 友紀子、二村明德、矢野 怜、村上秀友、小野賢二郎：抗菌薬治療により DAT シンチ所見が改善した神経毒性パーキンソン症候群の66歳男性例。第12回パーキンソン病運動障害疾患コンgres、京都、2018. 7. 5-7

大澤 基、下里誠司、浅野未希、内山正信、石垣征一郎、山本真寛、伊藤秀利、緒方浩顕、成島道昭、坂下暁子：低ガンマグロブリン血症合併胸腺腫から進行性多巣性白質脳症を発症した49歳女性例。第115回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ、京都、2018. 4. 14

大湾喜行、村上秀友、三木綾子、門馬祐太郎、黒田岳志、小野賢二郎：重心動揺計を用いたパーキンソン病の運動症状の評価について。第59回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

大湾喜行、村上秀友、馬場康彦、小野賢二郎：パーキンソン病の運動症状の評価における重心動揺計の有用性について。第12回パーキンソン病運動障害疾患コンgres、京都、2018. 7. 5-7

大湾喜行、刑部祐友子、高橋聖也、黒川信二、金野竜太、馬場康彦：ジストニアを合併し振戦の解釈に難渋したパーキンソン病の男性例。明日から役立つ神経治療勉強会 in 青葉、横浜、2018. 10. 19

刑部祐友子、高橋聖也、黒川信二、笠井英世、市川博雄、馬場康彦：手足口病に関連した髄膜脳炎により麻痺症状が出現し、脳卒中と混同された 45 歳男性例。第 224 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 3. 3

刑部祐友子：IgG κ 型 M 蛋白血症に感覚性運動失調と軸索型ニューロパチーをともなった 1 例。第 3 回 Kanagawa Neuropathy Forum、横浜、2018. 9. 28

小野賢二郎、矢野 怜、大中洋平、栄 良樹、齋藤 悠、黒田岳志、村上秀友：昭和大学病院における Direct Oral Anti Coagulant の使用状況。第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

小野賢二郎：High-Speed Atomic Force Microscopy Reveals Structural Dynamics of Amyloid β 1-42 Aggregates (2). 第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

小野賢二郎：Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro. 第 40 回日本生物学的精神医学会・第 61 回日本神経化学会大会 合同年会、神戸、2018. 9. 6-8

笠井英世：昭和大学脳神経内科における脳卒中診療。第 10 回城南 Circulation 研究会、東京、2018. 7. 9

神谷雄己：Stent first の戦略を揺るがす ACE68. 第 4 回虎の門脳血管内治療カンファレンス、東京、2018. 2. 9

神谷雄己、水間啓太、栗城綾子、宮内淑史、小室浩康、野原哲人、大橋英朗、河面倫有、藪崎 肇、池田尚人、小野賢二郎：遠位閉塞への挑戦 安全で有効な治療は？ 第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

神谷雄己：いつも繋がっています。第 3 回 KY Stroke Summit、東京、2018. 5. 11

神谷雄己、栗城綾子、水間啓太、宮内淑史、小室浩康、福田早織、藤井隆史、小野賢二郎：どこでもできる脳梗塞再開通療法の時短を目指して。第 32 回日本神経救急学会学術集会、神奈川、2018. 6. 30

神谷雄己、宮内淑史、水間啓太、福田早織、藤井隆史、小室浩康、三木綾子、栗城綾子、河面倫有、池田尚人：同軸で行う tandem 閉塞治療。第 15 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会、東京、2018. 7. 14

神谷雄己：脳室内出血で発症した視床 AVM の 1 例。ALICE Tokyo 2018、神奈川、2018. 9. 30

神谷雄己：90 分のその先へ。第 4 回 KY Stroke Summit、東京、2018. 10. 12

神谷雄己、宮内淑史、水間啓太、栗城綾子、福田早織、藤井隆史、小室浩康、三木綾子、河面倫有、新井晋太郎、池田尚人：同軸で行う tandem 閉塞の新たな治療法 CATCH technique. 第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、宮城、2018. 11. 22-24

神谷雄己、宮内淑史、水間啓太、栗城綾子、福田早織、藤井隆史、小室浩康、三木綾子、河面倫有、新井晋太郎、池田尚人：装着型通話端末を用いた脳卒中診療の新たな支援体制。第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、宮城、2018. 11. 22-24

城井義隆、金野竜太、笠井英世、黒川信二：L-DOPA 治療後に摂食嚥下障害が改善したパーキンソン病症例について。第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会、京都、2018. 1. 13

木村篤史、小口達敬、兼元みずき、矢野 怜、金野竜太、清水 潤、小野賢二郎：病理学的に封入体筋炎が疑われステロイド反応性が良好であった 81 歳男性例。第 224 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 3. 3

Kimura A, Kinno R, Nomoto S, Kubota S, Mori Y, Futamura A, Shiromaru A, Kuroda T, Yano S, Murakami H, Ono K: Effects of vitamin B12 on memory function and complexity of the cortical structure. 第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

木村篤史、村上秀友、安本太郎、久保田怜美、渡辺慶子、齋藤 悠、小野賢二郎：初診時パーキンソン病疑いにおける大脳皮質基底核変性症合併例について。みなと品川神経セミナー、東京、2018. 7. 17

金野竜太、村垣善浩、丸山隆志、田村 学、田中恭平、小野賢二郎、酒井邦嘉：左前頭葉の脳腫瘍が大脳皮質厚に及ぼす影響。第 20 回ヒト脳機能マッピング学会、横浜、2018. 3. 2-3

金野竜太、四郎丸あずさ、森 友紀子、二村明德、黒田岳志、矢野 怜、村上秀友、小野賢二郎：Effect of factor structure of the Wechsler Memory Scale-Revised on cortical structure for elderly patients. 第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

金野竜太：可逆性脳血管攣縮による左頭頂葉病変により左手の失書を呈した一例。田園都市線 Stroke Forum、横浜、2018. 7. 23

金野竜太、森 友紀子、刑部祐友子、高橋聖也、野元祥平、黒川信二、大湾喜行、石垣征一郎、馬場康彦、小野賢二郎：後期高齢者の高 HDL 血症は記憶機能と島皮質・前

頭弁蓋部の脳回構造の維持に関連する。第 37 回日本認知症学会学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

栗城綾子、神谷雄己、小室浩康、大橋英朗、野原哲人、水間啓太、宮内淑史、小野賢二郎：鎖骨下動脈狭窄の血管内治療に超音波モニタリングを行った 71 歳男性例。第 224 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 3. 3

栗城綾子、神谷雄己、水間啓太、小室浩康、大橋英朗、野原哲人、宮内淑史、薮崎 肇、河面倫有、池田尚人、小野賢二郎：心内血栓線溶療法における DOAC の有用性：自施設 11 例の報告。第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

栗城綾子、神谷雄己、小室浩康、大橋英朗、野原哲人、水間啓太、宮内淑史、小野賢二郎：経食道心エコーにおける左房径測定：左房容積係数との相関。第 37 回日本脳神経超音波学会総会、兵庫、2018. 6. 8-9

栗城綾子、神谷雄己、藤井隆史、福田早織、小室浩康、三木綾子、水間啓太、宮内淑史、小野賢二郎：上位頸髄梗塞をきたした 69 歳男性例。第 32 回日本神経救急学会学術集会、神奈川、2018. 6. 30

栗城綾子、水間啓太、宮内淑史、小室浩康、三木綾子、福田早織、藤井隆史、神谷雄己：Flow reverse 法を用いた頸動脈ステント留置術（CAS）中の頸動脈エコー活用法。NET-I 2018、福岡、2018. 9. 29

栗城綾子、神谷雄己、水間啓太、宮内淑史、小室浩康、三木綾子、藤井隆史、福田早織、小野賢二郎：大動脈粥腫の長期観察における経時的変化。第 21 回日本栓子検出と治療学会、千葉、2018. 10. 5-6

栗城綾子、神谷雄己、藤井隆史、福田早織、三木綾子、小室浩康、水間啓太、宮内淑史、小野賢二郎：心内血栓線溶療法における DOAC の有用性：自施設 12 例の報告。第 36 回日本神経治療学会、東京、2018. 11. 23-25

黒田岳志、金野竜太、森 友紀子、二村明憲、四郎丸あずさ、矢野 怜、村上秀友、小野賢二郎：Investigation of cerebral microbleeds in Alzheimer' s disease. 第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

黒田岳志、森 友紀子、二村明徳、四郎丸あずさ、矢野 怜、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：アルツハイマー病における微小脳出血の検討。第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

黒田岳志：てんかんに伴う認知機能障害 ～認知症と誤診しないために～。第 3 回城南 Epilepsy Forum、東京、2018. 7. 6

黒田岳志、森 友紀子、二村明德、四郎丸あずさ、笠井秀世、矢野 怜、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：アルツハイマー病における脳微小出血と脳脊髄液循環障害の関連性についての検討。第6回日本アミロイドーシス研究会学術集会、松本、2018. 8. 25

黒田岳志：パーキンソン病・アルツハイマー病の時間認知の障害。Fujimoto Parkinson' s Disease Conference、東京、2018. 11. 16

石代優美香、増田祐友子、高橋聖也、黒川信二、笠井英世、市川博雄、馬場康彦：手足口病に関連の髄膜脳炎により麻痺症状が出現し脳卒中と混同された45歳男性例。医学生研修医の日本内科学会ことはじめ2018 京都、京都、2018. 4. 14

小菅将太、井藤尚仁、野原哲人、森 友紀子、二村明德、四郎丸あずさ、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：小脳に局限した髄膜造影効果を呈しCryptococcus neoformans 髄膜脳炎と診断した71歳男性例。第225回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 6. 2

小菅将太、四郎丸あずさ、井藤尚仁、野原哲人、森 友紀子、二村明德、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：小脳に局限した髄膜造影効果を呈しCryptococcus neoformans 髄膜脳炎と診断した71歳男性例。第23回日本神経感染症学会総会・学術大会、東京、2018. 10. 19-20

小室浩康、栗城綾子、神谷雄己、大橋英朗、野原哲人、水間啓太、宮内淑史、小野賢二郎：鎖骨下動脈狭窄の血管内治療に顎下部超音波モニタリングを行った一例。第37回日本脳神経超音波学会総会、兵庫、2018. 6. 8-9

小室浩康、水間啓太、門馬佑太郎、藤井隆史、福田早織、三木綾子、宮内淑史、神谷雄己、小野賢二郎：脳卒中ホットラインで搬送され診断に苦慮したクリプトコッカス髄膜脳炎の44歳女性例。第32回日本神経救急学会学術集会、神奈川、2018. 6. 30

齋藤 悠：当院における重症筋無力症の治療の現状。昭和大学医師会講演会、東京、2018. 12. 7

正路大樹、野原哲人、門馬佑太郎、栄 良樹、森 友紀子、四郎丸あずさ、黒田岳志、小野賢二郎：呼吸不全を主徴とした抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の60歳女性例。第227回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 12. 1

所澤任修、小口達敬、辻 まゆみ、矢野 怜、木内祐二、小野賢二郎：In vitro においてシロスタゾールは β アミロイドのオリゴマー化を抑制する。第37回日本認知症学会学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

高橋聖也：実例を用いた脳波判読と症例。第10回CMEN、横浜、2018. 3. 2

高橋聖也、刑部祐友子、黒川信二、野元祥平、笠井英世、市川博雄、小野賢二郎、馬場康彦：脳幹梗塞局在と血糖の影響に関する検討。第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

高橋聖也、刑部祐友子、黒川信二、大湾喜行、金野竜太、馬場康彦：心筋梗塞後に進行性の下肢脱力を認めた症例。第 421 回神奈川神経談話会、横浜、2018. 7. 19

高橋聖也、刑部祐友子、黒川信二、大湾喜行、金野竜太、小野賢二郎、馬場康彦：心筋梗塞後に進行性の下肢脱力を認めた POEMS 症候群の 1 例。第 227 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 12. 1

高松幸子、神谷雄己、栗城綾子：脳卒中 A 選定患者における脳血管再開通療法迅速化への取り組み。第 47 回日本 IVR 学会総会、東京、2018. 5. 31-6. 2

高松幸子、神谷雄己、三浦良太、森好龍之介、百石仁美、栗城綾子、水間啓太、宮内淑史：脳卒中 A 選定搬送時のチーム力向上のために～シミュレーション教育～。第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、宮城、2018. 11. 22-24

田中晶子、小口江美子、小野賢二郎、小松崎記妃子：抗酸化力と脳波・呼吸がタッチングと音楽運動療法に及ぼす影響。第 33 回日本酸化ストレス学会関東支部会、東京、2018. 12. 15

鍋島陽子、木村篤史、所澤任修、二村明德、黒田岳志、村上秀友、小野賢二郎：進行性の認知症、錐体路、錐体外路症状、運動失調を認め、診断に苦慮した 79 歳女性例。第 226 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 9. 1

野原哲人：当院の神経救急診療における新規抗てんかん薬の使用経験。城東ニューロカンファレンス、東京、2018. 3. 23

福田早織：症例提示 第 1 回みんなで学ぼう 急性期血行再開通療法。東京、2018. 6. 29

福田早織、栗城綾子、野原哲人、藤井隆史、小室浩康、三木綾子、水間啓太、宮内淑史、神谷雄己、九島己樹、小野賢二郎：回収した塞栓子の病理所見より診断に至った脳塞栓症の 63 歳女性例。第 21 回日本栓子検出と治療学会、千葉、2018. 10. 5

福田早織、水間啓太、三木綾子、宮内淑史、栗城綾子、野木孝准、神谷雄己、小野賢二郎：1 型糖尿病が先行し難治性の意識障害を呈した 87 歳女性例。第 227 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 12. 1

藤井隆史、宮内淑史、三木綾子、小室浩康、栗城綾子、神谷雄己、小野賢二郎：動注化学療法カテーテルに付着した血栓による脳塞栓症が疑われた 58 歳男性症例。第 21 回日本栓子検出と治療学会、千葉、2018. 10. 5-6

二村明德、四郎丸あずさ、森 友紀子、黒田岳志、矢野 怜、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：AD と DLB の鑑別における ECD-脳血流 SPECT CIS core の有用性について。第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

二村明德、小山慎一、大橋英朗、三木綾子、小口達敬、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：右脳静脈洞塞栓症後に顔の中心部が大きく見えるようになった相貌変形視症例の検討。第 42 回日本神経心理学会学術集会、山形、2018. 9. 13. 14

二村明德、四郎丸あずさ、森 友紀子、黒田岳志、矢野 怜、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：AD と DLB の鑑別における ECD 脳血流 SPECT CIS core の有用性について。第 37 回日本認知症学会学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

三木綾子、水間啓太、福田早織、宮内淑史、栗城綾子、三好史人、神谷雄己、小野賢二郎：原因不明とされてきた低左心機能により発症した心原性脳塞栓症の 52 歳男性例。第 226 回日本神経学会関東・甲信越地方会、2018. 9. 1

三木綾子、水間啓太、福田早織、藤井隆史、小室浩康、宮内淑史、栗城綾子、神谷雄己、小野賢二郎：非痙攣性てんかん重積後に遷延する高次脳機能障害の評価に Arterial Spin Labeling (ASL) が有用であった 1 例。第 36 回日本神経治療学会学術集会、東京、2018. 11. 23-25

水間啓太、神谷雄己、栗城綾子、小室浩康、大橋英朗、野原哲人、宮内淑史、薮崎 肇、河面倫有、池田尚人、小野賢二郎：MRI Arterial Spin Labeling で頭蓋内脳動脈狭窄による脳梗塞に対する積極的内科治療の限界を予測する。第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

水間啓太：急性脳動脈閉塞の再開通療法後における過灌流現象。第 11 回 Stroke Neurologist 研究会、東京、2018. 5. 12

水間啓太、笠井史人、池田尚人：MRI Arterial Spin Labeling を用いて頭蓋内脳動脈狭窄による急性期脳梗塞患者の安全な離床を予測する。第 55 回日本リハビリテーション医学会学術集会、福岡、2018. 6. 30

水間啓太、藤井隆史、福田早織、小室浩康、三木綾子、宮内淑史、栗城綾子、神谷雄己、小野賢二郎：小人数での脳卒中診療におけるウェアラブルトランシーバー (BONX Grip) を用いた複数の脳卒中同時対応。第 36 回日本神経治療学会学術集会、東京、2018. 11. 23-25

宮内淑史：Tandem 閉塞 下から？上から？それとも…。第 10 回 Stroke Neurologist 研究会、東京、2018. 1. 20

宮内淑史、神谷雄己、栗城綾子、水間啓太、野原哲人、大橋英朗、小室浩康、池田尚人、藪崎 肇、河面倫有、小野賢二郎：頸部内頸動脈および頭蓋内脳動脈閉塞 tandem 病変に対する Coaxial Angioplasty and Thrombectomy (CAT) の有害性。第 43 回日本脳卒中学会学術集会、福岡、2018. 3. 15-18

宮内淑史、神谷雄己、藤井隆史、福田早織、三木綾子、小室浩康、水間啓太、栗城綾子、小野賢二郎：脳底動脈閉塞と全身の塞栓症に血栓回収治療を行った 86 歳女性例。第 225 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京、2018. 6. 2

宮内淑史、神谷雄己、藤井隆史、福田早織、三木綾子、小室浩康、水間啓太、栗城綾子、小野賢二郎：脳底動脈閉塞と全身の塞栓症に血栓回収治療を行った 86 歳女性例。第 15 回日本脳神経血管内治療学会関東地方会、東京、2018. 7. 14

宮内淑史：頭蓋内動脈狭窄・閉塞症に対する MRI ASL を用いた臨床的増悪の予測。第 4 回軽井沢脳血管内治療セミナー、長野、2018. 7. 28-30

宮内淑史：血管内治療時代における脳卒中診療 ～当院での取り組み～。脳卒中 Joint Conference、東京、2018. 9. 14

宮内淑史、神谷雄己、福田早織、藤井隆史、三木綾子、小室浩康、水間啓太、栗城綾子、池田尚人：DWI- Arterial Spin Labeling(ASL) mismatch による頭蓋内主幹動脈狭窄・閉塞症の臨床的増悪の予測。第 34 回日本脳神経血管内治療学会学術総会、宮城、2018. 11. 22-24

村上秀友：Parkinson 病診療における消化器系と神経系の接点～便秘・悪心・嘔吐に関する話題～。城南 PD Conference、東京、2018. 1. 19

村上秀友：Parkinson 病 ～腸管に関する最近の話題～。Japanese Neurologist Parkinson' s Disease Seminar、東京、2018. 4. 17

Murakami H, Owan Y, Futamura A, Saito Y, Kuroda T, Ono K: ^{123}I -MIBG myocardial scintigraphy predicts language function in de novo Parkinson' s disease. 第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

村上秀友、山本 謙、安本太郎、木村篤史、栄 良樹、野元祥平、久保田怜美、渡辺大士、渡辺慶子、齋藤 悠、小野賢二郎：未投薬の Parkinson 病の脳脊髄液の 5-HIAA 濃度は心臓交感神経機能と関連する。第 12 回パーキンソン病運動障害疾患コンgres、京都、2018. 7. 5-7

村上秀友：レボドパ配合剤の使い分けにより motor fluctuation を克服した 1 例。パーキンソン病 Dr' s Meeting in Tokyo、東京、2018. 7. 9

村上秀友：Parkinson 病と腸管・便秘 ～最近の話題～。消化管機能セミナー、東京、2018. 9. 4

村上秀友：Parkinson 病診療において臨床症状や検査所見の相互間の関連性から見えるもの。Fujimoto Parkinson' s Disease Conference、東京、2018. 11. 16

村上秀友、木村篤史、安本太郎、三木綾子、山本 謙、井藤尚仁、門馬佑太郎、大湾喜行、黒田岳志、齋藤 悠、矢野 怜、小野賢二郎：DAT スキャンの視覚評価が Parkinson 病の初回ドパミン補充療法に伴う遂行機能の変化を予測する。第 36 回日本神経治療学会学術集会、東京、2018. 11. 23-25

安本太郎、齋藤 悠、二村明德、四郎丸あずさ、黒田岳志、大中洋平、矢野 怜、金野竜太、村上秀友、小野賢二郎：当院における重症筋無力症に対する胸腺摘出術後の内服治療に関する検討。第 59 回日本神経学会学術大会、札幌、2018. 5. 23-26

矢野 怜、野元祥平、久保田怜美、森 友紀子、二村明德、黒田岳志、村上秀友、小野賢二郎：海馬萎縮の左右差が著明で嗜銀顆粒性認知症が疑われた症例の特徴。第 37 回日本認知症学会学術集会、札幌、2018. 10. 12-14

矢野 怜：症例提示による認知症診療の pit fall. 城南認知症フォーラム、東京、2018. 11. 26

(C) 研究班：班会議等

小野賢二郎：A β 及び α シヌクレイン試験管内凝集モデルを用いた食品関連因子の作用機序の解析。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 30 年度認知症研究開発事業 食品関連の危険因子・防御因子が作用する 認知症の分子標的の解明と予防・治療法の開発研究班（DPRED）、平成 30 年度第 1 回研究報告会、東京、2018. 8. 2

小野賢二郎：A β 及び α シヌクレイン試験管内凝集モデルを用いた食品関連因子の作用機序の解析。国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 30 年度認知症研究開発事業 食品関連の危険因子・防御因子が作用する 認知症の分子標的の解明と予防・治療法の開発研究班（DPRED）、平成 30 年度第 2 回研究報告会、東京、2018. 12. 6

(D) 他大学での講義

小野賢二郎：神経系の変性疾患 認知症。国立大学法人富山大学、富山、2018. 5. 14

(E) 市民講座、セミナー、研修会等

小野賢二郎：アルツハイマー病の治療戦略。AD 研究会画像診断サブコミッティ 2018、東京、2018. 2. 3

小野賢二郎：オリゴマオパチーとしてのアルツハイマー病。第7回認知症治療研究会、鳥取、2018. 2. 15

小野賢二郎：パーキンソン病の早期治療と神経変性疾患へのアプローチ。第10回パーキンソン病 QOL 懇話会、広島、2018. 4. 18

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。Niigata Dementia Forum、新潟、2018. 4. 19

小野賢二郎：アルツハイマー病とポリフェノール。東京在宅サービス医療講演、東京、2018. 4. 23

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。レミニール WEB セミナー、東京、2018. 6. 4

小野賢二郎：新たな疾患概念の変化。城南・川崎エリア TTR-FAP Web 講演会、東京、2018. 7. 5

小野賢二郎：アミロイド仮説再考と今後のアルツハイマー病治療戦略。第34回神経内科認知症研究会、名古屋、2018. 7. 11

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。静岡県中部認知症治療懇話会学術講演会、静岡、2018. 7. 12

小野賢二郎：アルツハイマー病の治療戦略。第54回広島神経医科学研究会、広島、2018. 8. 8

小野賢二郎：パーキンソン病の初期治療における Monoamine oxidase B 阻害薬の可能性。Takeda parkinson's Disease Web Symposium、東京、2018. 8. 27

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症におけるアミロイド仮説を再考する。Web 講演会 Alzheimer's Disease Live Symposium、東京、2018. 9. 11

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療戦略。さっぽろ認知症勉強会、札幌、2018. 9. 28

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。CNS FORUM、東京、2018. 11. 2

小野賢二郎：レビー小体病：疾患修飾へのアプローチ。DLB セミナー in 宮城、仙台、2018. 11. 8

小野賢二郎：アルツハイマー病とは？ 平成 30 年度秋季第 58 回昭和大学公開講座（品川区ホームページ「しながわ学びの杜」生涯学習講義としてインターネット配信予定、東京、2018. 11. 10

小野賢二郎：アルツハイマー病発症機序解明の現状と先制医療の展望。第 9 回関東脳神経外科認知症研究会、東京、2018. 11. 10

小野賢二郎：アルツハイマー型認知症の診断と治療。レミニール Web セミナー、東京、2018. 11. 28

笠井英世：脳卒中の現実を知ろう ～寝たきりにならないために～。平成 30 年度 第 2 回品川区民公開講座、東京、2018. 12. 8

神谷雄己：いまどきの脳卒中診療 ―カテーテルと DOAC 必須なんですー。城東脳卒中懇話会、東京、2018. 1. 10

神谷雄己：ここまできた Stroke 急性期治療 心房細動 Web セミナー 急性期担当医師からのメッセージ。Online、2018. 1. 19

神谷雄己：再開通にかける ―熊本に育ててもらった Stroke Neurologist のいまー。熊本赤十字病院脳血管内治療講演会、熊本、2018. 3. 7

神谷雄己：都市部の AIS 治療 ―磨け チームとテクニックー。STROKE 2018、福岡、2018. 3. 15-18

神谷雄己：血栓回収療法のいま。城東ニューロカンファレンス、東京、2018. 3. 23

神谷雄己：地域で救う脳卒中 ―いますべき院内整備と病診連携ー。脳卒中病診連携研究会 in 東葛、千葉、2018. 4. 23

神谷雄己：血管内治療ハンズオン。第 59 回日本神経学会学術大会 第 15 回生涯教育セミナー ハンズオン、北海道、2018. 5. 26

神谷雄己：脳神経内科の神経救急。江東リハビリテーション病院招待講演、東京、2018. 5. 29

神谷雄己：脳梗塞急性期治療のいま。第 12 回足立・葛飾糖尿病研究会（AKD）、東京、2018. 6. 18

神谷雄己：DOAC とカテーテルで救う脳塞栓症。Apoplectic Stroke Conference、東京、2018. 6. 21

神谷雄己：脳卒中患者の画像診断。日本診療放射線技師会 第 15 回読影セミナー、東京、2018. 7. 1

神谷雄己：豊洲の脳梗塞再開通療法と抗凝固療法 ―開設 4 年を振り返って―。東横脳神経・心臓合同講演会、神奈川、2018. 7. 12

神谷雄己：脳卒中診療の夜明け。江東リハビリテーション交流会、東京、2018. 7. 23

神谷雄己：脳動脈瘤集中講義 「破裂脳動脈瘤の比較研究」。第 4 回軽井沢脳血管内治療セミナー、長野、2018. 7. 28-30

神谷雄己：心原性脳塞栓症の急性期治療 ～リクシアナ座談会～ Stroke2 次予防 AF アブレーションの可能性を探る、Online、2018. 8. 2

神谷雄己：血管内治療ハンズオン。第 1 回日本神経学会特別教育研修会 脳卒中コース ハンズオンセミナー、東京、2018. 9. 17

神谷雄己：急性期脳梗塞治療の現状について。脳卒中医療連携フォーラム、東京、2018. 9. 13

神谷雄己：当院のてんかん救急診療。EPILEPSY SEMINAR 2018、東京、2018. 9. 20

神谷雄己：カテーテルと DOAC で心原性脳塞栓症に立ち向かう。Tokyo Cerebrovascular Seminar 2018、東京、2018. 11. 2

(3) その他の対外活動（委員会、取材など）

取材等

小野賢二郎：風戸賞・風戸研究奨励賞授賞式開催。科学新聞、2018. 3. 16

小野賢二郎、藤元流八郎：NewScope! 大学病院が地域の医療機関と共催で認知症カフェを開催。地域包括新時代 7、pp14-15、2018

小野賢二郎、藤元流八郎：大学病院が認知症カフェ 地域の診療所医師や他職種と連携。生き残る医療・介護経営のためのウェブマガジン 医療介護 CBnews マネジメント、2018. 6. 29

小野賢二郎：座談会 アルツハイマー病の病態仮説の再考とコリン仮説を考慮することの臨床的意義。AAJ(Alzheimer Academy Japan)Journal 4、pp3-9、2018

神谷雄己、栗城綾子、宮内淑史、水間啓太、三木綾子、小室浩康、藤井隆史、福田早織：tPA 名医とつながる！たけしの家庭の医学。朝日放送、2018. 9. 11

水間啓太、神谷雄己：導入事例。BONX for Bussiness <https://bonx.co.jp/>、2018. 10. 24

森 友紀子：健康と良い友だち『わが街ザ・ドクター』。健康情報誌、2018. 12. 1

[6] 研究助成

小野賢二郎：平成 29-30 年度国立研究開発法人 日本医療研究開発機構（AMED）認知症研究開発事業『食品関連の危険因子・防止因子が採用する認知症の分子標的の解明と予防・治療法の開発（DPRED）』班・研究開発分担者（研究開発代表者・山田正仁）

小野賢二郎：厚生労働省・平成 30 年度厚生労働科学研究費『アミロイドーシスに関する調査研究』班・研究開発分担者（研究開発代表者・内木宏延）

金野竜太：文部科学省／日本学術振興会・平成 30 年度科学研究費 基盤研究 (C)『統語処理を支える脳内ネットワークの機能低下が言語機能に及ぼす影響』・研究代表者

金野竜太：公益財団法人ブレインサイエンス振興財団・平成 30 年度研究助成『神経膠腫の脳皮質構造に対する影響の解明』・研究代表者

馬場康彦：文部科学省／日本学術振興会・平成 29 年度科学研究費 基盤研究 (C)『パーキンソン症候群の難治性疼痛と歩行障害に対する脊髄刺激の影響』・研究代表者

森 友紀子：武田薬品工業株式会社／2018 年度武田薬品ジャパンメディカルアフェアーズ研究助成 『軽度認知障害(MCI)から早期アルツハイマー型認知症患者に対する“社会貢献”・“運動”・“会話”の組み合わせプログラムが与える影響について』・研究代表者

[7] 学位・専門医・認定医など

(1)学位の取得

小口達敬
所澤任修
渡辺慶子

(2) 専門医・認定医の取得

(日本神経学会 神経内科専門医)

小口達敬

久保田怜美

黒川信二

所澤任修

野元祥平

渡辺慶子

(日本認知症学会 認知症専門医)

金野竜太

黒田岳志

村上秀友

森 友紀子

(日本内科学会 総合内科専門医)

稗田宗太郎

(日本内科学会 認定内科医)

浅野未希

刑部祐友子

木村篤史

小室浩康

三木綾子

宮内淑史

安本太郎

山本 謙

[8] 褒 章

大澤 基、下里誠司、浅野未希、内山正信、石垣征一郎、山本真寛、伊藤秀利、緒方浩顕、成島道昭、坂下暁子：低ガンマグロブリン血症合併胸腺腫から進行性多巣性白質脳症を発症した 49 歳女性例。第 115 回日本内科学会総会 医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 優秀演題賞・優秀指導教官賞受賞、京都、2018. 4. 14

小野賢二郎：原子間力顕微鏡および電子顕微鏡によるアミロイド構成蛋白質凝集の観察。第11回平成30年度風戸賞、東京、2018. 3. 3

小野賢二郎：高速原子間力顕微鏡によるアルツハイマー病の病態解明。平成30年度東京都医師会医学研究賞奨励賞、東京、2018. 3. 11

村上秀友：臨床症状やバイオマーカー相互間の関連に着目したパーキンソン病の病態評価と治療法の開発。平成30年度 昭和大学医学部同窓会賞、東京、2018. 6. 24

村上秀友：DATスキヤンの視覚評価がParkinson病の初回ドパミン補充療法に伴う遂行機能の変化を予測する。第36回日本神経治療学会 優秀演題賞(医師 ポスター部門)、東京、2018. 11. 24

〔 9 〕 附属病院の紹介

藤 が 丘 病 院

藤が丘病院脳神経内科は、脳神経外科と共同で脳神経センターを運営し、現在は 7 階西病棟で入院診療を行っております。また同病棟には脳卒中ケアユニット（SCU）3 床を開設しております。SCU では脳卒中専門医をはじめとする脳神経センターの専門スタッフによる治療のほか、3 対 1 の看護、早期からのリハビリテーションを受けることが可能であり、急性期脳卒中の診療をさらに充実したものとし、より質の高い医療を提供できるものと考えております。また、救急隊からのスムーズな受け入れを実現すべく、脳卒中ホットラインも設置しております。治療では、脳梗塞超急性期には、経静脈的血栓溶解療法（r-tPA 療法）のほか、血栓回収ステントによる血管内血栓除去術などが専門医の判断で適応に応じて施行可能となっております。再発予防・急性期リハビリテーションの観点では、できる限り患者さんの負担が少ない検査の上で治療を選択し、脳神経外科やリハビリテーション科医師と連携し、必要に応じて適切な外科的治療方針、早期のリハビリテーション介入を行い、患者さんに最良の治療を尽くしております。

一方で、パーキンソン病、運動ニューロン疾患など、難病を主体とする神経疾患の入院診療も行っております。今後も近隣の生方とも連携をとり、急性期医療、高度救急医療を実践する地域の基幹病院における一員としての役割を果たすとともに、パーキンソン病などの神経変性疾患も継続して診療にあたり、地域医療に貢献できる診療科として努力して行きたいと思っております。

（文責：大湾喜行）



北 部 病 院

横浜市北部病院・脳神経内科は、内科の診療部門の一つとして、腎臓・糖尿病・内分泌・血液内科などの診療科と密な連携のもとに診療に従事しています。したがって、神経内科疾患だけでなく、内科疾患、内科疾患にからんだ神経疾患も多く、様々な症例を診察しています。尚、日本神経学会の准教育施設、日本脳卒中学会の研修教育施設であり、またその他様々な内科系学会の認定施設にもなっています。

対象疾患は神経内科及び内科全般であり、主に神経変性疾患(パーキンソン病、アルツハイマー型認知症 等)、脳血管障害(脳梗塞 等)、脱髄性疾患(多発性硬化症、視神経脊髄炎 等)、炎症性疾患(髄膜炎、脳炎、脊髄炎 等)、痙攣・てんかん 等、幅広く診療しています。外来患者はパーキンソン病をはじめとした神経変性疾患が多く、その他にも頭痛、めまい、しびれ、もの忘れなどを主訴に来院する神経内科疾患、また、発熱などを主訴に来院するいわゆる内科疾患の診療も行っています。

教育に関しては、病歴聴取・身体診察をはじめ丁寧な診察をすることを心掛けており、希少な症例においては学会発表をし、症例報告論文にすることを目標にしています。研究に関しては臨床研究を主とし、近年では高齢者てんかんと認知症の関連や、初期パーキンソン病とうつの関連に関して検討を行ってきました。

(文責:石垣征一郎)



江 東 豊 洲 病 院

・診療

江東豊洲病院 脳神経内科は、外科手術を必要としない脳神経系の診療全般を担当しております。日本神経学会指導医・専門医のほか、脳卒中専門医、脳神経血管内治療指導医・専門医、脳神経超音波検査士を有し、脳神経疾患の急性期診療のほとんどを自科で包括的に行うことができます。また、脳神経外科と連携し、脳血管センターとして夜間を含め終日独立した救急診療を行っております。

・対象疾患

急性期では、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中を中心に診療するとともに、脳炎、髄膜炎、けいれん、ギランバレー症候群などその他の急性期脳神経疾患を含め、脳神経の救急疾患を幅広く対象としています。慢性期では、脳血管狭窄症や脳動脈瘤などの脳血管障害を中心に診療しております。

・治療

できる限り患者さんの負担が少ない検査、治療を選択します。また、脳神経外科、リハビリテーション科と連携し、適切な手術方針、早期のリハビリテーション介入をすすめ、患者さんの健康寿命延伸に努めております。

・特徴的な診療領域

当科の特色として、脳神経血管内治療と脳神経超音波検査があります。脳神経血管内治療は外科手術と比べて患者さんの負担が少ない治療です。江東豊洲病院では脳神経内科が担当し、内科治療を軸とした包括的治療の一環として取り入れ、継ぎ目のない治療を行っております。また、患者さんに対する侵襲の少ない超音波検査を積極的に使用し、脳神経超音波検査士の資格を持つ医師が専門的な診断を行っております。

・研修

日本神経学会の教育施設であるほか、日本脳卒中学会、日本脳神経超音波学会、日本脳神経血管内治療学会の研修施設であり、これらの専門医取得が可能です。とくに日本脳神経血管内治療学会専門医に関しては、脳神経内科に所属して取得が可能な希少な施設です。

・実績（2018年1月～12月）

総入院患者数 467人

（脳梗塞 237人 うちアルテプラゼ
(tPA) 静注療法 30件、カテーテルによる
血行再建術 57件）

脳卒中 A 選定救急搬送数 271件

経食道心エコー検査 107件

脳神経血管内治療 101件

（文責：栗城綾子）



[1 0] 昭和大学脳神経内科 在籍者名簿

[昭和大学病院・附属東病院]

主任教授（診療科長）	小 野 賢二郎
客員教授	河 村 満
准教授	稗 田 宗太郎
講師（科長補佐）	矢 野 怜
講師（医局長）	黒 田 岳 志
講師（病棟医長）	齋 藤 悠
講師（外来医長）	笠 井 英 世
講師	杉 本 あずさ
助教	兼 元 みずき
助教	二 村 明 徳
助教	渡 辺 大 士
助教	小 口 達 敬
助教	栄 良 樹
助教	所 澤 任 修
助教（医科）	渡 辺 慶 子
助教（医科）	浅 野 未 希
大学院生	飯 塚 奈都子
大学院生	森 友紀子
大学院生	久保田 怜 美
大学院生	野 元 祥 平
大学院生	野 原 哲 人
大学院生	門 馬 祐太郎
大学院生	大 橋 英 朗
大学院生	木 村 篤 史
大学院生	安 本 太 郎
大学院生	山 本 謙
内科専攻医	石 田 敦 士
内科専攻医	小 菅 将 太
内科専攻医	澤 井 綾 子
内科専攻医	正 路 大 樹
内科専攻医	鍋 島 陽 子
臨床心理士	宮之原 麻 衣

研究補助員	石 引 由 美
研究補助員	木 村 はるか
研究補助員	本 田 み か

〔藤が丘病院〕

准教授	馬 場 康 彦
講師	金 野 竜 太
助教	大 湾 善 行
助教	黒 川 信 二
助教（医科）	高 橋 聖 也
助教（医科）	刑 部 祐友子

〔藤が丘リハビリテーション病院〕

病院長／准教授	市 川 博 雄
---------	---------

〔横浜市北部病院〕

准教授	石 垣 征一郎
助教	内 山 正 信
助教（医科）	三 木 綾 子

〔江東豊洲病院〕

准教授	神 谷 雄 己
講師	栗 城 綾 子
助教	宮 内 淑 史
助教	水 間 啓 太
助教	小 室 浩 康
助教（医科）	井 藤 尚 仁
内科専攻医	福 田 早 織
内科専攻医	藤 井 隆 史

編集後記

今回、医局年報第3号の作成に携わらせていただきました。

2018年はさまざまな出来事で賑わった年でもありましたが、特に際立ったのはスポーツ界での日本の躍進ではないでしょうか。2月に開催された冬季五輪平昌大会では過去最多の13個のメダルを獲得しました。フィギュアスケートでは羽生結弦選手が連覇を達成し、女子スピードスケートでは小平奈緒選手や高木姉妹の活躍が世界を沸かし、カーリング女子日本代表チームは競技中の言動「そだねー」が流行語大賞にも選出されました。またテニス界では大坂なおみ選手が9月に行われた全米オープンで日本史上初となる女王の栄冠を手に入れました。その後の全豪オープンでも優勝して四大大会連覇、世界ランキング1位を獲得することはこの時はまだ誰も想像していませんでした。

当科においても昨年度にも増して医局員の活躍が光る年となりました。今年度も昭和大学病院および附属病院から多数の学会・研究会での発表が行われ、論文・総説などの執筆がありました。一方で臨床においては脳卒中から認知症・変性疾患、末梢神経・筋疾患まで幅広い範囲の患者さんを外来や入院において多数受け入れ、脳神経内科のジェネラリストとしての役割を果たすことができましたと思います。学術面と臨床面を両立することは体力的・時間的な制限もあり非常に大変である一方で、それが私立の大学病院の面白みでもあるのでしょう。

年報の作成に関わって感じたことの一つとしては、医局員の学会発表や論文執筆などの仕事が達成されている裏には、この年報に名前の載っていない人々の存在があるということを忘れてはいけないということです。私は医局長として2年目のシーズンを終えようとしていますが、医局長の立場から医局員を見ると、皆それぞれが日々小さな壁にぶつかり過ごしているのが分かります。患者さんの治療方針で悩む者、救急当番のPHSが鳴り「またか」とため息をつく者、学会の締め切りが近くなり焦る者、仕事での人間関係がうまく行かず困惑する者など、垣間見える感情はさまざまです。大学病院で仕事をしているとどうしても負の感情を抱くことも多くなりがちですが、ある者は友人と酒を飲み楽しい時間を過ごし、ある者は家族や恋人と癒しの時間を過ごして心のリフレッシュを図り、明日からの活力をもらうことができます。また学会発表の裏では不在の間、病棟を守ってくれる後輩がいます。このような周囲の人々の存在が医局員の日々の原動力となっており、この年報に記されているそれぞれの業績や科の診療実績の裏に隠れていることを忘れてはならないのだと思います。私自身も、家族や友人、職場の同僚などさまざまな人々に支えて頂き、心身共に元気でいられることに日々感謝です。

最後になりましたが、この1年間、昭和大学病院の脳神経内科に関わり支えてくださった関係各所の多くの方々に、この場を借りて改めて厚く御礼申し上げます。今後とも当医局を温かい目で見守って頂ければ幸いに存じます。

医局長 黒田 岳志